

# 社会科学学習指導案

平成30年6月9日(土)

I 単元 日本の歴史－縄文のむらから古墳のくにへー

## II 考察

### 1 教材観

#### (1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

##### ③学びに向かう力・人間性等

むらからくにへと変化したことについて問題を主体的に調べ、解決しようとする態度、我が国の歴史を大切にしていって国を愛する心情

##### ①知識・技能

むらからくにへと変化したことへの知識と遺跡や出土品、地図や年表などの資料で調べ、まとめる技能

##### ②思考力・判断力・表現力等

狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子を関連付けたり総合したりして世の中の様子の変化や歴史を学ぶ意味を考え、表現する力

#### (2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解すること。その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。

(イ) 遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

#### (3) 本小単元の学習とその価値

本小単元は、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子について、遺跡や出土品、地図や年表などの資料を用いて調べ、世の中の様子の変化と歴史を学ぶ意味を考える学習である。その価値は以下のとおりである。

これまでに現在の我が国の民主政治の基礎を学んできた子どもたちにとって、我が国の歴史を学ぶことは、社会・文化の変遷と先人たちの業績を知り、未来の担い手としてよりよい社会の形成に参画するための示唆を得ることにつながる。その上で、歴史学習の始まりとなる本小単元では、世の中の様子がむらからくにへと変化したこと、すなわち、現在の国家及び社会に至る歴史において、統治権力が集中していく過程を学ぶことに本質的な意味がある。

統治権力が集中した大きな要因に、米作りの伝承が挙げられる。米作りは我が国の文化を飛躍的に向上させた一方、貧富の差を広げ、集落同士の戦いや支配・被支配の関係を生み出した。そして、各地を豪族が支配する中、大和朝廷はその権威を広げ、国土を統一するに至る。

このような我が国の歴史の起源と国家基盤の形成過程を追究することは、米作りの伝来をきっかけに生じた社会の変化を捉えるとともに、歴史上の主な事象を手掛かりに我が国の歴史の展開を考える力の素地となる。また、この時代の我が国に文字による記録はないため、子どもたちは博物館や資料館を見学したり、遺跡や出土品などの資料を根拠としたりして、当時の人々の生活や世の中の様子を考えていく。このような学習経験は、子どもたちの歴史的事象を適切に調べる技能を高めるとともに、我が国の歴史への関心を高めていくことにつながる。

#### (4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「天皇中心の国づくり」で、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を捉え、この頃の世の中の様子と歴史を学ぶ意味を考える学習へと発展していく。

#### 2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、6年「日本国憲法とわたしたちの暮らし」の学習において、日本国憲法の基本的な考え方に着目して条文などの資料で調べ、我が国の民主政治を捉え、日本国憲法が国民生活に果たす役割を考えてきた。その中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

① 現在の我が国の政治は国民主権の考え方の下、民主的に行われ、憲法をはじめとした法により国民生活の基本が定められていることを理解している。このような子どもたちが、我が国の社会がむらからくにへと変化したことを理解できるように、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子を取り上げ、世の中の様子の変化を段階的に追究する学習過程を設定する。

日本国憲法の条文などの資料で調べることができている。このような子どもたちが、遺跡や出土品を用いて当時の世の中の様子を調べられるように、貝塚や住居跡などの遺跡、土器や埴輪などの出土品に触れる機会を十分に確保する。

② 調べたことを関連付けたり総合したりして日本国憲法が国民生活に果たす役割を考えることができている。このような子どもたちが、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子について調べたことを関連付けたり総合したりして世の中の変化を考えることができるように、米作りの伝来から大和朝廷による統一までの出来事の因果関係を整理する図を用意する。

③ 日本国憲法と国民生活との関わりについて、問題を主体的に追究することができる。このような子どもたちが、米作りの伝来をきっかけに、我が国の社会がむらからくにへと変化したことについて、問題を主体的に追究できるように、問題に対する予想、調べる観点、調べる内容と方法、分かりそうなことを一覧表にした学習計画表を作成する活動を設定する。

### Ⅲ 目標及び評価規準

#### Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

#### Ⅴ 本時の学習

- ねらい 大和朝廷の国土統一の様子を前方後円墳の分布図などで調べ、勢力が拡大した理由を話し合うことを通して、大陸の高い技術を拠り所にして統一を進めたことを理解する。
- 準備 3世紀・6世紀の大型古墳分布図と勢力分布図 鉄剣の銘文の写真 鉄の延べ板の出土位置を示した地図
- 展開

学習活動と子どもの意識

指導上の留意点

- 1 本時のめあてをつかむ。
- ・近畿地方に大型古墳が集中しているね。その他の地域は大和じゃないくにだよ。
  - ・どのように大和朝廷が国土統一していったのか古墳の資料で調べたら分かりそうだ。
- 2 大型古墳の分布と大和朝廷の勢力の移り変わりについて、気付いたことを話し合う。
- ・6世紀には全国にたくさんの前方後円墳が増えたのか。群馬にも大きな古墳があるぞ。
  - ・たしかに、6世紀に勢力下にある九州や東北にも前方後円墳が作られているのだな。
  - ・大王の名が入った鉄剣も見つかったのか。
  - ・大和朝廷はなぜ勢力を拡大することができたのだろうか。戦に強かったからかな。
- 3 大和朝廷の勢力が拡大した理由を話し合う。
- ・この鉄の延べ板は、日本だけでなく朝鮮半島でも出土していたのだな。
  - ・大和朝廷は大陸から鉄を手に入れて鉄の武器や鎧を多く持っていたから戦に強かったのではないかな。
  - ・なるほど、四国や関東でも出土しているということは、大和と関係の深くくに鉄を与えていたと考えられるね。
  - ・大和朝廷は鉄作りや古墳作りなどの大陸の技術を背景に勢力を拡大したのか。
- 4 本時の学習を振り返る。
- ・今日は、古墳や出土品の分布などの資料で調べて、大和朝廷の勢力と結び付いたら大和朝廷が国土統一した様子が分かったよ。
  - ・次回は、学習問題の結論を出すのだったな。ノートを見直せば、米作りをきっかけにした世の中の変化をまとめられそうだな。

- 大和朝廷の国土統一の様子を明らかにするという本時の学習の見通しをもてるように、3世紀の大型古墳分布図と勢力分布図、学習計画表を提示し、前方後円墳の集中する場所や大和朝廷の勢力範囲、本時追究する内容を問いかける。
- 前方後円墳の近畿地方への集中と東西への広がりにつけるように、3世紀と6世紀の大型古墳分布図と大和朝廷の勢力範囲を提示し、時間の経過に伴う変化の様子を問いかける。
- 時間の経過とともに前方後円墳よりも前方後円墳が多く作られたことに気付けるように、古墳の形の違いに着目するよう助言する。
- 勢力の広がりを実感できるように、鉄剣の銘文の写真を提示する。
- 大和朝廷が勢力を拡大した理由を大陸の鉄の広がりに関連付けて考えられるように、鉄の延べ板の出土位置を示した資料を提示し、互いの考えをペアで交流するよう促す。
- 勢力を拡大した理由を大陸の鉄の広がりに関連付けられない子どもには、卑弥呼が魏に朝貢し銅鏡や金印を得たことを想起するよう促す。

評価項目

大和朝廷が大陸の高い技術を背景に勢力を拡大したことを記述したり、発言したりしている。  
 <ノート・発言①>

- 古墳や出土品の分布図を調べ、それらに関連付けて問題解決できた成果を実感できるように、「どのような資料を使って学んだか」の視点を提示し、本時の振り返りを記述するよう促す。
- 次時への見通しをもてるように、「米作りの伝来」と「大和朝廷の統一」のカードを提示し、間をつなぐ出来事を問いかける。

IV 指導計画（全10時間）

過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法（観点）>
つかむ	1	○三内丸山遺跡の様子やその出土品を観察して、縄文時代の人々の生活の様子を話し合う。	○縄文時代の人々は狩猟・採集の生活を営んでいたことを理解できるように、縄文土器や石器、貝殻などの実物資料、縄文時代の季節ごとの食べ物を示した資料を用意する。	◇縄文時代の人々は必要な道具を石や動物の骨でつくり、狩りや漁、採集の生活を営んでいたことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○板付遺跡の様子やその出土品を観察して、米作りをきっかけとした世の中の様子の変化について、学習問題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">学習問題 米作りが始まり、縄文のむらは古墳のくにへと、どのように変わっていったのだろう</div>	○大陸から伝わった米作りをきっかけとした世の中の様子の変化について問題意識をもてるように、縄文時代と弥生時代の人口推移を示したグラフと、「米作りが世の中に与えた影響」の視点を提示する。	◇米作りをきっかけとした世の中の様子の変化について、疑問や調べたいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言③>
	1	○学習問題について予想し、学習計画を立てる。 <調べる時代と内容> ①弥生時代 ・ 弥生時代の世の中の様子と卑弥呼の政治 ②古墳時代 ・ 古墳づくりの様子 ・ 大和朝廷の国土統一の様子	○予想や調べる方法、調べて分かることを考えられるように、学習計画表の枠や「米作りの始まりによって変化したこと」の視点、年表を提示する。	◇自分の予想や調べる方法、調べて分かることを記述したり、発言したりしている。 <学習計画表・発言③>
追究する	1	○弥生時代の世の中の様子を、吉野ケ里遺跡の様子やその出土品、卑弥呼の伝承などから調べ、整理する。	○貧富の差ができたことにより出現した豪族同士が争い、くにができたことや金属器の技術が伝わったことを理解できるように、吉野ケ里遺跡やその出土品の写真資料、卑弥呼に関する資料を提示する。	◇貧富の差ができたことにより争いが起こり、多くのむらがまとまっていったことや金属器の技術が伝わったことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○古墳時代の古墳づくりの様子を、高崎市の八幡塚古墳の様子や石室からの出土品から調べ、整理する。	○渡来人の技術力を背景に権力をもった王や豪族によって多様な古墳が作られたことを理解できるように、大仙古墳の全景や石室からの出土品の写真資料、群馬県古墳分布図を提示する。	◇権力をもった王や豪族が渡来人の技術力を用いて、古墳を作らせたことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言①>
	1	<b>○古墳時代の和朝廷の国土統一の様子や拡大の理由を、大型古墳の分布図や和朝廷の勢力図、出土品から調べ、整理する。（本時）</b>	○大陸の土木・製鉄技術を拠り所にして和朝廷が国土の統一を進めていったことを理解できるように、3世紀と6世紀の大型古墳分布図と鉄の延べ板の出土位置を示した地図などを提示する。	◇和朝廷が大陸の高い技術を背景に勢力を拡大したことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言①>
まとめる・生かす	1	○米作りをきっかけとした世の中の様子の変化について結論を出し、この時代の歴史を学ぶ意味を話し合う。	○米作りをきっかけとして、我が国の国家や社会の基盤が形づくられたことやその意味を考えられるように、米作りの伝来から和朝廷による統一までの出来事の因果関係を整理する図を用意する。	◇米作りの伝来から、むらからくにへと世の中が変化していった過程を自分なりに価値付けて記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言②>
	3	○古事記の国の形成に関する神話を聞き、群馬県立歴史博物館とかみつけの里博物館の現場学習を行い、今後の歴史学習への見通しをもつ。	○国の形成に関する当時の人々のものの見方や考え方、これから歴史学習への関心を高められるように、神話にふれたり、遺跡や出土品などの文化遺産を見学したりする時間を十分に確保する。	◇遺跡や出土品などの文化遺産を意欲的に見学し、これからの学習への期待を記述している。 <行動・学習プリント③>